



篠塚 一

Kyōichi Shinozuka

1961年千葉県生まれ。専門学校卒業後、大手旅行会社に勤務。91年(株)SPI設立。2006年NPO法人「日本トラベルヘルパー協会」設立。行動に不自由のある人への外出支援ノウハウを公開し、都市の高齢者と地方の健康資源を結び、超高齢社会のサービス事業創造に取り組んでいる。著書「介護旅行にかけませんか」(講談社)。
<http://www.aelclub.com>



渡辺 万由美

Mayumi Watanabe

東京都生まれ。日本女子大学文学部卒業。(株)電通勤務を経て、1995年芸能プロダクション(株)トップコート設立。2011年(株)渡辺プロダクション代表取締役就任。本物の才能を持つエンターテイナーの発掘・育成を手掛け、世界に通用するエンターテインメントのプロデュースを目指している。
<http://www.topcoat.co.jp>



思っていました。だから、周りに迷惑をかけるからといって自分のしたいことを諦めないでほしい、最後まで自信を持って自分の存在を貫いて生きてほしいなど。代わりにバッグを運ぶ人がいればその方たちが旅を続けられるのなら、僕がその役割をしようと思ったんです。車いすや寝たきりの人も飛行機に乗れるというのは当たり前のことであって、その当たり前前のレベルをもっと上げていきたいと思っています」

篠塚さんが手掛けた介護旅行の第一号は、一九九八年、山口県に暮らす要介護五の寝たきりの女性からの「死ぬ前に、ナイアガラの滝を見に行きたい」という願いを実現したものでした。その後、介護保険制度の施行や交通バリアフリー法の制定、旅行を医学の面から研究・サポートする日本旅行医学会の設立など、社会的な追い風も手伝って、トラベルヘルパーの仕事も認知されるようになり、少しずつ介護旅行の申し込みが増え続けていきました。現在は、「大好きな歌舞伎を見に行きたい」「孫の結婚式に出たい」といった身近なお出かけから一泊二日の国内旅行、海外への長期旅行まで、年間約五百件の様々な利用者の要望を実現されています。

また、篠塚さんはNPO法人「日本トラベルヘルパー協会」を設立し、トラベルヘルパーの養成と介護旅行システムの全国整備、介護予防や認知力向上を図るためのセミナーや教室の開催など、様々な活動をなさっています。なかには、親の介護を経験した六十代の男性がトラベルヘルパーに転身するなど、篠塚さんの取り組みは、定年を迎えた人や子育て中の人など新しい雇用の担い手も創出しているのです。

介護が持つ暗さを、旅行で明るく!

トラベルヘルパーは、体に触れて介護のサービスのできる「ホームヘルパー二級」の資格を持つことが最低要件であり、食事、排泄、入浴の介助といった一般のホームヘルパーが行う日常のケア以外に、旅の専門知識、車いすによる交通機関

の利用など外出先での介助技術を身につけ、出発から帰宅まですべてにわたってお客様をサポートします。現在SPIでは、社内に十名のスタッフが常駐し、お客様の要望に対し綿密に打ち合わせを重ねた後、登録している全国各地の約六百五十名のトラベルヘルパーに旅先の業務を依頼しています。

「一般の旅行に比べ人件費などのコストが割高になるのが現状ですが、自宅や施設の最寄り駅までトラベルヘルパーが同行→移動は公共交通機関を利用→目的地のトラベルヘルパーにバトンする、こうした仕組みが整えば旅費を軽減できる。そこで今進めているのが、「あなたの町のトラベルヘルパー」という取り組みです。日本各地にトラベルヘルパーセンター